

大原中だより

さいたま市立大原中学校
TEL 048-831-5397
FAX 048-835-1357
第 9 号

校訓 「歴史を拓く」
学校教育目標 はつらつとした生徒、地域に輝く学校

令和 2 年 1 月 8 日 (水)

メールアドレス:ohara-j@saitama-city.ed.jp ホームページ:http://ohara-j.saitama-city.ed.jp/

『 G l o b a l な視点をもって! 』

校長 小林 広利

「未来への分岐点」、令和2年元日に放送されたNHKスペシャルのタイトルです。番組では、国連の「SDGs:持続可能な開発目標」として2030年までに世界レベルで達成すべき目標を紹介していました。

「1. 貧困をなくそう」「4.質の高い教育をみんなに」「6.安全な水とトイレを世界中に」「7. エネルギーをみんなに そしてクリーンに」「13. 気候変動に具体的な対策を」「16. 平和と公平をすべての人に」「17. パートナリシップで目標を達成しよう」など17の目標です。ここではすべてを書き出すことはできないので、後で調べていただくとして、例えば気候変動に関して言えば、現在地球の平均気温は産業革命前に比べて1.0度上昇しているそうです。番組では、温暖化が暴走した場合のシナリオとして次のような可能性を示唆していました。

『まず、北極や南極の氷が大量に溶け始めます。すると太陽光を反射して気温の上昇を防ぐ機能が急速に低下し、その影響はアマゾンなど熱帯雨林に及びます。二酸化炭素を吸収していた大量の木々が高温や乾燥によって立ち枯れ、火災が頻発し大部分が荒野へと変化してしまいます。熱帯雨林に蓄えられていた大量の二酸化炭素は放出され、さらに温暖化が進み、海面は今世紀末には1mほど上昇し大水害が頻発します。シベリヤやアラスカでは永久凍土が溶けて二酸化炭素の25倍の温室効果をもつメタンガスが地下から大量に放出される可能性があります。そうなると100年に一度と言われていた大災害が毎年のように起こることになるのです。・・・』

ポツダム気候影響研究所のヨハン・ロックストローム共同所長は、「今、地球が不安定化する瀬戸際であることは科学的にも明らかで、今後10年が地球と人類の未来を決めるのです」と述べています。

確かに過去10年で、地震、台風、洪水、噴火そして猛暑など災害や異常気象にまつわるニュースが増え、健康や生活に大きな影響を及ぼしていることは事実であり、私たちは昨年、台風15号・19号による甚大な被害を受けたばかりです。では、私たちは今後どのような意識をもつべきでしょうか。

大原中学校では、今までも Grit (やり抜く力) /Growth (自分を伸ばす力) /Global (多様性を受け入れ協働する力) を3つのGとして教育活動に取り入れ推進してきましたが、今回大原中だより新年号で生徒の皆さんに伝えたいことは、地球規模・世界規模で物事を見る眼をもってほしいということです。まさに『G l o b a l な視点』です。例えば環境問題で言えば、日頃のプラスチックごみの処理一つが地球にやさしい行動ですし、昨年暮れの「足立神社の落ち葉拾い」の体験も環境を考える一歩となってもらいたいと感じています。もちろん環境問題以外でも『G l o b a l な視点』は大切です。

皆さんは、18歳で選挙権を得ます。今から身の回りの多くの出来事に対して自ら考え積極的に行動し、興味をもって社会と関わっていける人になってください。

また、中学3年生は、進路決定の時期です。今までの学習や生活、そして体験や努力がよい結果を導いてくれると信じて最後まで気を抜かず頑張りましょう。1・2年生も含め、世の中では今何が起きているのかに興味をもち、身近な生活の課題に対して、自分は何ができるか考え行動できる一年にしてください。今年も、生徒一人ひとりが、学力・体力・精神力ともに伸びをみせ、心豊かで世界に羽ばたく基礎力を付けていけますように、保護者・地域の皆様のご支援をよろしくお願い申し上げます。



【足立神社落ち葉拾い】